

## Tokyo Contemporary Art Award 2026-2028 受賞者

TCAA



## 中堅アーティストの活動を継続的にサポートする「Tokyo Contemporary Art Award」

## 第6回受賞者は、潘逸舟とやんツーに決定！

「Tokyo Contemporary Art Award (TCAA)」は、東京都とトーキョーアーツアンドスペースが2018年度から実施している中堅アーティストを対象とした現代美術賞です。

6回目となる「TCAA 2026-2028」では、選考委員にホセリーナ・クルス氏（マニラ現代美術デザイン美術館（MCAD）ディレクター兼キュレーター）と近藤健一氏（森美術館 シニア・キュレーター）を新たに加えた、計6名の選考委員によるスタジオ訪問や面談を経て、2名の受賞者を選出しました。

受賞者は受賞後の海外活動を経て、受賞3年目に東京都現代美術館にて受賞記念展を開催します。展覧会終了後のモノグラフ（作品集）の制作など複数年にわたる継続的な支援をととして、海外での展開も含め受賞作家の更なる飛躍をサポートします。

なお、3月4日（水）には授賞式および受賞記念シンポジウムを東京都現代美術館にて開催します。

## 選考委員長による総評

今回は参加したアーティストたちによる、真摯で正直なプレゼンテーションや質疑応答に選考委員全員が心を動かされた選考会でした。自分がどこから来て、アーティストとしてどのように社会に関わっていくのかという切実な問題に、テクノロジーやジェンダー、日本の近代史、周縁化された人々の声を手がかりに立ち向かう姿勢が顕著に表れ、率直に彼らの作品によって表現されていました。その一方で、各アーティストの視覚言語や、彼らのコンセプトを補強する思想や言葉の独創性はやや希薄で、既視感があったり、借り物の印象が拭えない感もありました。おそらく彼らもそのことを自覚しており、突破口を探しているのではないのでしょうか。中堅のアーティストを支援する本賞の選考会が、彼らが今ひとたび自分が築き上げてきた表現世界を振り返り、自分のコンフォタブルゾーンから飛び出し、次のステップに挑戦する機会となったならば幸いです。

高橋瑞木 [CHAT 館長兼チーフキュレーター]

< お問い合わせ >

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）

広報担当：舟橋、市川、中村

TEL：03-5245-1142 FAX：03-5245-1140 E-mail：press@tokyoartsandspace.jp

## 授賞式および受賞記念シンポジウム

開催日：2026年3月4日（水）

会場：東京都現代美術館 B2F 講堂（東京都江東区三好 4-1-1）

※入場無料・要事前申込・先着順。日英同時通訳、日本手話通訳あり。

■授賞式（14:00-14:30 開場：13:30）

■受賞記念シンポジウム（14:40-16:10）

TCAA 2026-2028 の選考委員による選考の総評や、選考会で議論になったポイントについて振り返ります。また、受賞者2名が自身の作品や制作について話します。

[登壇者]

受賞者：潘逸舟

やんツー

選考委員：近藤健一（森美術館 シニア・キュレーター）

野村しのぶ（東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター）

近藤由紀（トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター）

モデレーター：塩見有子（特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT / エイト] ディレクター／TCAA 選考会運営事務局）

<申し込み方法>

TCAA ウェブサイトより、3月2日（月）までにお申込みください。

申込フォーム：<https://tokyocontemporaryartaward.jp/news/form/3743>



## トーキョーアーツアンドスペース (TOKAS) について

TOKAS は、幅広いジャンルの活動や領域横断的・実験的な試みを支援し、同時代の表現を東京から創造・発信するアートセンターです。TOKAS は若手アーティストの育成支援機関、トーキョーワンダーサイト（TWS）として2001年に創設され、2017年に名称を変更しました。発表の場としての「TOKAS本郷」と滞在制作やリサーチ活動の拠点となる「TOKASレジデンス」の2館を中心に、今生まれつつある創造的な活動を多様なプログラムによって継続的に支援し、都市東京の豊かな文化を支えるための活動を行っています。また、2018年より東京都と「Tokyo Contemporary Art Award」を創設しました。

<https://www.tokyoartsandspace.jp/>

## 受賞者紹介



## 潘 逸舟 | HAN Ishu

1987 年上海生まれ、東京都在住。

2025 年東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了。

## ■受賞理由

個人的な経験から、極めて強い動機をもって作品制作をしており、詩的でエッセイ的でありながら、歴史や現代美術への参照もみられる。主題の核がしっかりしており、動機と主題、制作と作品が深くつながり、それらが明確に示された作家のシグニチャー（特徴）を示す一群の作品群につながっている。作品に対する視点を拡張する時期でもあり、移住や異文化の中での生活という経験における他者や自分を介在する今後のプロジェクトが作家の今後のキャリアにとって大きな発展となることが期待できる。

撮影：野村佐紀子

## ■プロフィール

映像、パフォーマンス、インスタレーション、写真などのメディアや身の回りの日用品などを用いて、共同体や個が介在する同一性と他者性について考察する作品を発表している。幼い頃に上海から青森に移住した経験をもつ自身の視点をベースに、切り取られた日常風景の中に自らの身体を介入させ、社会と個の関係の中で生じる疑問や戸惑いを、真摯に、時にユーモアを交えて表現する。

近年の主な展覧会に「Asian Avant-Garde Film Festival 2025: Time will Tell」(M+, 香港)、「アジア・パシフィック・トリエンナーレ 11」(クイーンズランド州立美術館・近代美術館、ブリスベン、オーストラリア、2024)、「ホーム・スイート・ホーム」(国立国際美術館、大阪、2023)、「In the Wake 震災以後：日本の写真家がとらえた 3.11」(ボストン美術館、2015) など。TWS/TOKAS 参加プログラムに「渋谷自在—無限、あるいは自己の領域」(トーキョーワンダーサイト渋谷、2017)、「TWS クリエーター・イン・レジデンス・オープン・スタジオ『トーキョー・ストーリー 2013』」(トーキョーワンダーサイト本郷)、「平成 25 年度二国間交流事業プログラム<メルボルン>」など。

受賞歴に「第 36 回 タカシマヤ美術賞」(2025)、「日産アートアワード 2020」グランプリ。



1. 《あなたと私にある重さ》2023  
「BEYOND GLITCH：壊れた世界で現実を描き直す」展示風景（国立京都国際会館、2023）  
撮影：守屋友樹



2. 《波を耕す》2024、シングル・チャンネル・ビデオ

受賞者のインタビューや今後の活動、展覧会に関する詳細などは、TCAA ウェブサイトにて随時公開します。

<https://www.tokyocontemporaryartaward.jp>







## やんツー | yang02

1984 年神奈川県生まれ、神奈川県在住。

2009 年多摩美術大学大学院デザイン専攻情報デザイン研究領域修了。

### ■受賞理由

テクノロジーに関して、誰もが共感する問いを扱い、ユーモアを込めてテクノロジーに潜む暴力性を問う批評性を持つ。グラフィティやドローイングを自動的に描く装置を起点としながらも、テクノロジーの構造やシステムの破綻に限定されない要素も示唆している点が興味深い。作品のバリエーションは豊富だが、その根底には作家の興味の幅広さに基づく明確な動機や必然性が存在する。受賞記念展は作品をより俯瞰的に示す場となり得て、作家の新たな方向性や可能性を探る良い機会となるだろう。

撮影：中川 周

### ■プロフィール

描く、鑑賞する、作品を設置（撤去）するなど、美術の制度にまつわる人間特有と思われる行為を、機械に代替させるインスタレーション作品で知られる。また、近年はレーシングカー玩具を鈍速化させたり、自作の大型発電機によって展示空間を発電所に変容させるなど、テクノロジーの利便性や合理性の背後に隠蔽される、政治性や特権性、暴力といった問題にフォーカスし、技術に規定される社会の在り方を問う作品制作を行う。

近年の主な展覧会に「瀬戸内国際芸術祭 2025」（平賀源内記念館、さぬき、香川）、「Random Access Project 4.0」（ナム・ジュン・パイクアートセンター、龍仁、韓国、2025）、「MOT アニュアル 2023 シナジー、創造と生成のあいだ」（東京都現代美術館）、「六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！」（森美術館、東京）など。

TWS/TOKAS 参加プログラムに「OPEN SITE 2018-2019 TOKAS 推奨企画 コンタクトゴンゾ『untitled session』」（トーキョーアーツアンドスペース本郷、2019）、「TWS クリエーター・イン・レジデンス・オープン・スタジオ『トーキョー・ストーリー 2010』」（トーキョーワンダーサイト本郷、2011）、「平成 22 年度二国間交流事業プログラム＜バルセロナ＞」など。

受賞歴に「TERRADA ART AWARD 2023」寺瀬由紀賞、「第 21 回文化庁メディア芸術祭」アート部門 優秀賞（2018）（※菅野創との共同受賞）など。



3. 《TEFCO vol.2 ~ アンダーコントロール ~》2023  
「MOT アニュアル 2023 シナジー、創造と生成のあいだ」展示風景（東京都現代美術館）  
撮影：木暮伸也



4. 《永続的な一過性》2022  
「六本木クロッシング 2022 展：往来オーライ！」展示風景（森美術館、東京）  
撮影：竹久直樹

受賞者のインタビューや今後の活動、展覧会に関する詳細などは、TCAA ウェブサイトにて随時公開します。

<https://www.tokyocontemporaryartaward.jp>



## 本賞概要

TCAA は、東京都とトーキョーアーツアンドスペース（公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館）が、海外での活動に意欲をもつ中堅アーティストを対象に 2018 年から実施している現代美術の賞です。

アーティストのキャリアにとって最適な時期に最善の支援内容を提供する必要性を重視する本賞の選考は、公募と推薦を併用し、選考委員によるリサーチや書類選考、スタジオ訪問などを経て 2 組の受賞者を決定します。受賞者には複数年にわたる継続的な活動支援を行います。

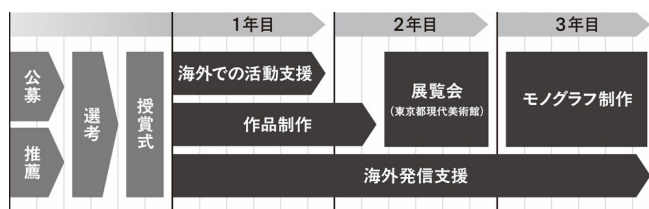
## TCAA 2026-2028 について

2025 年 6 月に公募を実施。選考委員に公募作家リストを共有し、推薦作家を含む一次選考会の候補者の選出を依頼。選考での議論を経て、最終選考会の候補者を選出。その後、スタジオ訪問や面接など候補者との対話を経て審査を行い、受賞者を決定しました。選考にあたり、中堅アーティストとして固有の表現／造形言語を有し、作品群を確立しているか、制作への動機付けや作品の説得力、海外展開における接続性や伝達力、受賞後の飛躍への期待、TCAA による支援が作家のキャリア・ステージにおいて重要なタイミングであるかなどを考慮しました。

### 【支援内容】

- 1) 賞金 300 万円
- 2) 海外での制作活動支援上限 200 万円  
(旅費、滞在費、調査・制作費等)
- 3) 展覧会の実施  
(東京都現代美術館での展示、2027 年度予定)
- 4) モノグラフ（作品集）の作成  
(上記 (3) の展覧会実施後に制作)・海外発信支援

### 【スケジュール】



### 【選考委員】

ホセリーナ・クルス [マニラ現代美術デザイン美術館 (MCAD) ディレクター兼キュレーター]  
 近藤健一 [森美術館 シニア・キュレーター]  
 高橋瑞木 [CHAT 館長兼チーフキュレーター]  
 野村しのぶ [東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター]  
 レズリー・マ [メトロポリタン美術館 ミン・チュー・シュウ & ダニエル・シュウ 近現代美術部門 キュレーター]  
 近藤由紀 [トーキョーアーツアンドスペース プログラムディレクター]

【選考会運営事務局】特定非営利活動法人アーツイニシアティヴトウキョウ [AIT / エイト]

### 【これまでの受賞者】

- 第 1 回 TCAA 2019-2021 風間サチコ / 下道基行  
 第 2 回 TCAA 2020-2022 藤井 光 / 山城知佳子  
 第 3 回 TCAA 2021-2023 志賀理江子 / 竹内公太  
 第 4 回 TCAA 2022-2024 サエボーグ / 津田道子  
 第 5 回 TCAA 2024-2026 梅田哲也 / 呉 夏枝

第 5 回受賞者梅田哲也と呉夏枝による受賞記念展を東京都現代美術館にて開催中。

展覧会名：「Tokyo Contemporary Art Award 2024-2026 受賞記念展『湿地』」

会 期：2025 年 12 月 25 日（木）～ 2026 年 3 月 29 日（日）

会 場：東京都現代美術館 企画展示室 3F（東京都江東区三好 4-1-1）



# 「Tokyo Contemporary Art Award 2026-2028」

## 受賞者決定のお知らせ

### 広報用画像申込書

Email : **press@tokyoartsandspace.jp**

トーキョーアーツアンドスペース広報担当宛

(ご希望の広報用画像番号にチェックを入れてください。下記の URL からダウンロードも可能です。)

☐ 1 ☐ 2 ☐ 3 ☐ 4 ☐ TCAA 2026-2028 ウェブバナー ☐ TCAA 2026-2028 ロゴマーク  
☐ ポートレート ( ☐ 潘 逸舟 ☐ やん ツー )

<https://www.tokyoartsandspace.jp/press/form/24>

掲載媒体名 (特集・コーナー名)

種別 ☐ TV ☐ ラジオ ☐ 新聞 ☐ フリーペーパー ☐ ネット媒体 ☐ その他 ( )

掲載/放送予定日 月 日 発売/放送 ( 月号 )

貴社名

ご担当者名

Tel

E-mail (画像はメールでお送りしますので必ずご記入ください)

画像到着希望日 月 日 時頃までに送付

- ・ご記入いただいた個人情報は、お問い合わせ及びご要望に対応させていただき目的のみ利用させていただきます。
- ・お急ぎの場合はメールもしくは、お電話でお問い合わせください。

#### 【注意事項】

- ・画像データは申請時の目的以外での使用はできません。ご掲載や放送以外の目的での写真のご利用はご遠慮ください。また、申請時とは別の媒体での使用、再販等の場合は改めて申請してください。
- ・画像データは、メールにてお送りします。お手元に届くまで1～2日(土日祝休み)ほど頂戴いたしますのでご了承ください。
- ・作品画像は全図でご使用いただき、トリミング、文字載せはお控えください。必ず所定のキャプション等を併記してください。
- ・提供した画像データは、使用後速やかに破棄してください。画像が無断で第三者に利用されることのないよう、Web サイトへのご掲載は、画像にコピーガードや転載不可の明記をしてください。
- ・基本情報確認のため、事前に記事原稿をお送りください。
- ・取材の内容が収録された番組等はビデオ・DVD を一部、印刷物(掲載誌・雑誌)については現物を1部もしくはコピーの場合は3部ご送付ください。Web サイトの場合は、掲載時に URL をお知らせください。

< お問い合わせ > ※校正ゲラ及び掲載誌紙・DVD 等は下記宛にお送りください。

〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 東京都現代美術館内

トーキョーアーツアンドスペース (公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館)

広報担当: 舟橋、市川、中村

TEL : 03-5245-1142 FAX : 03-5245-1140 E-mail : [press@tokyoartsandspace.jp](mailto:press@tokyoartsandspace.jp)